

5. 成果の論文発表・口頭発表等

1 断層帯の地下構造解明のための反射法地震探査および重力探査

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

- 1) 著者：池田安隆・岩崎貴哉・伊藤谷生・狩野謙一・佐藤比呂志・阿部信太郎・東中基倫・須田茂幸・川中 卓
題名：糸魚川－静岡構造線中部を横切る反射法地震探査（辰野－諏訪側線）
発表先：日本地球惑星科学連合 2008 年大会、千葉
発表年月：平成 20 年 5 月
- 2) 著者：Ikeda, Y., Iwasaki, T., Kano, K., and Ito, T.
題名：Structure and behavior of the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, central Japan, as revealed by seismic profiling and tectonic geomorphology
発表先：Asia Oceania Geoscience Society, 5th Annual Meeting, Busan (Korea)
発表年月：平成 20 年 6 月
- 3) 著者：Iwasaki, T., Ikeda, Y., Sato H., Ito, T., Kano, K., Higashinaka, M., Suda, S., Kawanaka T. and Research Group for Active Fault Systems along Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line
題名：Geometry of active fault systems developed along Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, central Japan, from recent seismic reflection surveys
発表先：Deep Seismic Profiling of the Continents and Their Margins, 13th Symposium, Lapland (Finland)
発表年月：平成 20 年 6 月
- 4) 著者：Ito, T., Ikeda, Y., Iwasaki, T., Kano, K., Sato, H., Hirata, N., Abe, S., Miyauchi, T., Higashinaka, M., Suda, S., and Kawanaka, T.
題名：Initial structure of the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line emerging from the recent deep seismic profilings across the ISTL central Japan
発表先：Deep Seismic Profiling of the Continents and Their Margins, 13th Symposium, Lapland (Finland)
発表年月：平成 20 年 6 月
- 5) 著者：Kikuchi, S., Tsumura, N., Ito, T., Sato, H., Iwasaki, T. Hirata, N., Ikeda, Y., Abe, S., Aoyagi, Y., Kawanaka, T., Abe, S., Higashinaka, M., and Kozawa, T.
題名：The configuration of an aseismic slab beneath the collision zone between Izu and Japan-Honshu arc, inferred from wide-angle reflection and receiver function analyses
発表先：Deep Seismic Profiling of the Continents and Their Margins, 13th Symposium, Lapland (Finland)
発表年月：平成 20 年 6 月

- 6) 著者 : Ikeda, Y., Iwasaki, T., Kano, K. and Ito, T.
 題名 : Seismic hazards from a large fault zone with complex history: an example from the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, central Japan
 発表先 : The Second China-Japan Science Forum, “The 2008 Wenchuan Earthquake and Natural Disaster Mitigation”, Beijing (China)
 発表年月 : 平成 21 年 3 月
- 7) 著者 : Ikeda, Y., Kano, K., Iwasaki, T. and Ito, T.
 題名 : Structure and tectonics of the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, a highly hazardous fault zone in central Japan
 発表先 : The Second China-Japan Science Forum, “The 2008 Wenchuan Earthquake and Natural Disaster Mitigation”, Beijing (China)
 発表年月 : 平成 21 年 3 月
- 8) 著者 : Ikeda, Y., Iwasaki, T., Kano, K., Ito, T., Sato, H., Tajikara, M., Kikuchi, S., Higashinaka, M., Kozawa, T., and Kawanaka, T.
 題名 : Active nappe with a high slip rate: seismic and gravity profiling across the southern part of the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, central Japan,
 発表先 : *Tectonophysics*
 発表年月 : (印刷中)

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、仕様・標準等の策定 なし

2 断層周辺の不均質構造を解明するための電磁気探査

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

- 1) 著者 : 小川康雄・糸魚川-静岡構造線断層帯 MT 観測グループ
 題名 : 糸魚川-静岡構造線断層帯の比抵抗構造-諏訪湖周辺 (その 2)
 発表先 : 日本地球惑星科学連合 2008 年大会、千葉
 発表年月 : 平成 20 年 5 月
- 2) 著者 : 石瀬素子・三宅弘恵・瀨瀬一起・岩崎貴哉・池田安隆・小川康雄・小原一成・平田直・桑原保人・鈴木康弘・西村卓也・鷺谷 威・矢来博司
 題名 : 糸魚川-静岡構造線断層帯における強震動予測のための震源モデル
 発表先 : 日本地震学会秋季大会、つくば
 発表年月 : 平成 20 年 11 月
- 3) 著者 : Y. Ogawa and Y. Honkura
 題名 : Electromagnetic Imaging of Crustal Fluids: Implications for crustal deformation and seismicity
 発表先 : Research perspective of COE21 “How to build Habitable Planets?”, 東京
 発表年月 : 平成 20 年 9 月
- (b) 特許出願、ソフトウェア開発、仕様・標準等の策定 なし

3. 1 断層帯周辺における自然地震観測（長期機動観測）

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

- 1) 著者：Asano, Y., Maeda, T. and Obara, K.

題名：Spatial Variation of Anomalies in Coda Wave Amplitude in the Central Part of Japan

発表先：7th General Assembly for Asian Seismological Commission, Tsukuba

発表年月：平成20年11月

- (b) 特許出願、ソフトウェア開発、仕様・標準等の策定 なし

3. 2 活断層周辺における自然地震観測

（稠密アレー観測による地震活動及び地殻不均質構造の解明）

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

- 1) 著者：Yannis, P., Hirata, N., Sato, H., Iwasaki, T., Kato, A., Imanishi, K., Kuwahara, Y. and Cho, I.

題名：P- and S- wave velocity structure in and around the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line (ISTL) fault system

発表先：7th General Assembly for Asian Seismological Commission, Tsukuba

発表年月：平成20年11月

- 2) 著者：Yannis, P., N. Hirata, H. Sato, T. Iwasaki, A. Kato, K. Imanishi, Y. Kuwahara, and I. Cho

題名：P- and S- wave velocity structure in and around the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line (ISTL) fault system revealed by dense seismic array observations

発表先：AGU Fall Meeting, San Francisco (USA)

発表年月：平成20年12月

- (b) 特許出願、ソフトウェア開発、仕様・標準等の策定 なし

3. 3 断層帯周辺における自然地震観測

（稠密アレー観測による微小地震のメカニズム、応力解析）

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

- 1) 著者：今西和俊・長 郁夫・桑原保人・平田 直・パナヨトプロス ヤニス

題名：微小地震解析による糸魚川-静岡構造線活断層系の応力場マッピング

発表先：日本地球惑星科学連合2008年大会、千葉

発表年月：平成20年5月

- (b) 特許出願、ソフトウェア開発、仕様・標準等の策定 なし

4 地震時断層挙動（活動区間・変位量分布）の予測精度向上に向けた変動地形調査

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

- 1) 著者：鈴木康弘・杉戸信彦・坂上寛之・内田主税・渡辺満久・澤 祥・松多信尚・田力正好・廣内大助・谷口 薫
題名：糸魚川－静岡構造線活断層情報ステーション
発表先：e-journal GEO
発表年月：受理済
- 2) 著者：鈴木康弘・杉戸信彦・隈元 崇・澤 祥・渡辺満久・松多信尚・廣内大助・谷口 薫・田力正好・石黒聡士・佐藤善輝
題名：平均変位速度およびずれ量分布に基づく糸魚川－静岡構造線断層帯北部の地震発生予測
発表先：地震2
発表年月：投稿中
- 3) 著者：松多信尚・澤 祥・杉戸信彦・田力正好・谷口 薫・廣内大助・石黒聡士・佐藤善輝・渡辺満久・鈴木康弘・糸魚川－静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ
題名：糸魚川－静岡構造線活断層帯中南部、茅野～富士見～上円井の変動地形の再検討と写真測量システムを利用した詳細平均変位速度解明
発表先：日本地球惑星科学連合 2008 年大会、千葉
発表年月：平成 20 年 5 月
- 4) 著者：杉戸信彦・松多信尚・澤 祥・谷口 薫・田力正好・廣内大助・石黒聡士・佐藤善輝・渡辺満久・鈴木康弘・糸魚川－静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ
題名：変動地形からみた糸魚川活断層帯中南部、茅野～白州の断層構造
発表先：日本地球惑星科学連合 2008 年大会、千葉
発表年月：平成 20 年 5 月
- 5) 著者：鈴木康弘・杉戸信彦
題名：活断層の平均変位速度分布から何が議論できるか－詳細位置形状とずれ量に注目した研究の展望－
発表先：日本地球惑星科学連合 2008 年大会、千葉
発表年月：平成 20 年 5 月
- 6) 著者：鈴木康弘・杉戸信彦・坂上寛之・内田主税・糸魚川－静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ
題名：糸魚川活断層 WebGIS のコンセプト
発表先：日本地球惑星科学連合 2008 年大会、千葉
発表年月：平成 20 年 5 月

- 7) 著者：鈴木康弘・杉戸信彦・坂上寛之・内田主税・糸魚川一静岡構造線重点調査観測変動地形グループ
 題名：「糸魚川一静岡構造線」活断層情報ステーションのweb公開
 発表先：日本活断層学会 2008年度秋季学術大会、東京
 発表年月：平成20年11月
- 8) 著者：谷口 薫・澤 祥・鈴木康弘・渡辺満久・松多信尚・糸静線重点調査変動地形グループ
 題名：糸静線活断層系中北部における変動地形の認定とピット掘削調査
 発表先：日本活断層学会 2008年度秋季学術大会、東京
 発表年月：平成20年11月
- 9) 著者：松多信尚・田力正好・廣内大助・澤 祥・杉戸信彦・谷口 薫・石黒聡士・中村優太・佐藤善輝・渡辺満久・鈴木康弘・糸魚川一静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ
 題名：糸魚川一静岡構造線活断層帯中部、白州地域のLiDAR測量を利用した活断層線と変位速度
 発表先：日本地球惑星科学連合 2009年大会、千葉
 発表年月：発表予定
- 10) 著者：杉戸信彦・澤 祥・谷口 薫・佐藤善輝・中村優太・糸魚川一静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ
 題名：糸静線活断層帯中南部、富士見町御射山神戸における断層変位地形の発達史
 発表先：日本地球惑星科学連合 2009年大会、千葉
 発表年月：発表予定
- 11) 著者：田力正好・澤 祥・杉戸信彦・鈴木康弘・谷口 薫・中村優太・廣内大助・松多信尚・渡辺満久・糸魚川一静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ
 題名：糸魚川一静岡構造線活断層帯南部、白州～鯉沢付近の変動地形
 発表先：日本地球惑星科学連合 2009年大会、千葉
 発表年月：発表予定
- (b) 特許出願、ソフトウェア開発、仕様・標準等の策定 なし

5 より詳しい地震活動履歴解明のための地質学および史料地震学的研究

(a) 成果の論文発表・口頭発表

- 1) 著者：Okumura, K.
 題名：Regional paleoseismology within tectonic complexity of plate interior and island arcs: the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line active fault system in central Japan.
 発表先：AGU Fall Meeting, San Francisco (USA)
 発表年月：平成20年12月

- 2) 著者：吉永佑一・原口 強
 題名：波形処理音響断面法による神城断層の活動履歴の詳細解読
 発表先：北淡活断層シンポジウム 2009、淡路市
 発表年月：平成 21 年 1 月
- 3) 著者：遠田晋次・丸山 正・奥村晃史・小俣雅志・郡谷順英・岩崎孝明
 題名：糸静線活断層系釜無山断層群の完新世断層活動
 発表先：日本地球惑星科学連合 2009 年大会、千葉
 発表年月：発表予定

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、仕様・標準等の策定 なし

6 強震動評価高精度化のための強震観測・地下構造調査

(a) 成果の論文発表・口頭発表

- 1) 著者：山中浩明・内山知道
 題名：微動観測による松本盆地の S 波速度構造探査
 発表先：日本地球惑星科学連合 2008 年大会、千葉
 発表年月：平成 20 年 5 月
- 2) 著者：石瀬素子・三宅弘恵・瀨瀬一起・岩崎貴哉・池田安隆・小川康雄・小原一成・平田直・桑原保人・鈴木康弘・遠田晋次・西村卓也・鷺谷威・矢来博司
 題名：糸魚川―静岡構造線断層帯における強震動予測のための震源モデル
 発表先：日本地震学会秋季大会、つくば
 発表年月：平成 20 年 11 月
- 3) 著者：山中浩明・内山知道
 題名：微動探査と地震波干渉法による松本盆地の S 波速度構造
 発表先：物理探査, 61, 469-482
 発表年月：平成 20 年
- 4) 著者：内山知道・山中浩明
 題名：微動観測に基づく松本盆地の S 波速度構造探査-地震波干渉法の適用-
 発表先：物理探査学会第 118 回学術講演会論文集, 71-74
 発表年月：平成 20 年 5 月

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、仕様・標準等の策定 なし

3. 7 GPS 観測による詳細地殻変動分布の解明

(a) 成果の論文発表・口頭発表

- 1) 著者：鷺谷威
 題名：GPS 観測による日本列島の地震テクトニクス

発表先：地震2

発表年月：印刷中

- 2) 著者：鷺谷威・大園真子・平原和朗・橋本学・細善信・和田安男・竹内章・道家涼介・西村卓也・矢来博司

題名：GPS観測から見た活断層の応力蓄積過程

発表先：日本地球惑星科学連合2008年大会, S149-002

発表年月：2008年5月29日

- 3) 著者：鷺谷威

題名：2つのひずみ集中帯と内陸大地震

発表先：日本地質学会中部支部年会, 新潟

発表年月：2008年6月28日

- 4) 著者：Sagiya, T.

題名：A large earthquake at the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line: an alternative model

発表先：ASC/SSJ Joint Meeting, Tsukuba

発表年月：2008年11月26日

- 5) 著者：Sagiya, T., Y. Asahi, M. Ohzono, M. Hashimoto, Y. Hosono, Y. Wada, K. Hirahara, A. Takeuchi, and T. Nishimura

題名：Tectonic loading of crustal faults: how does the lower crust behave?

発表先：ASC/SSJ Joint Meeting, Tsukuba

発表年月：2008年11月26日

- 6) 著者：Sagiya, T., Y. Asahi, M. Ohzono, M. Hashimoto, Y. Hosono, Y. Wada, K. Hirahara, A. Takeuchi, and T. Nishimura

題名：Tectonic loading of crustal faults: how does the lower crust behave?

発表先：AGU 2008 Fall Meeting, San Francisco

発表年月：2008年12月19日

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、仕様・標準等の策定